

## サーボシステム事業部の抱負

工藤 昌彦  
Masahiko Kudou

仲田 克之  
Katsuyuki Nakata

村田 茂人  
Shigeto Murata

サーボシステムビジネスは1950年代の二相サーボモータに始まり、1970年代以降のOAブームや省力化・自動化の時代のニーズを先取りし、「メカトロニクスをリードするサーボの山洋電気」として、サーボシステムビジネスを展開してきました。その後システム志向を強め最近ではオープン化も取り入れ、サーボシステムビジネスとして今日そのさらなる発展を図っております。その間、当初東京工場（現在の本社所在地）を生産拠点としていましたが、その後の事業の拡大により川口工場や上田工場（緑が丘）へ移転し、さらにサーボモータの専門工場としての築地工場、ステッピングモータの専門工場としての青木工場へと生産拠点を拡大してきました。現在、サーボシステム事業部は、緑が丘・築地・青木・川口の四つの工場です。

このたび、上田リサーチパークに待望の研究開発施設としての「テクノロジーセンター」が完成したことは、実に感慨深いものがあります。特にサーボシステム事業部は設計開発部門が、上田と川口に別れていたためにいろいろと不都合な点もありましたが、ここに集結することができたことにより、サーボシステムとしてのトータル的な研究開発による事業推進体制が整うこととなります。恵まれた自然環境と施設を活用して、企業理念である「すべての人々の幸せ」の実現のため、サーボシステム事業部を運営していく所存です。

今年度は第一次中期計画の最終年度であり、所期の目標達成に向けて営業部門ともども懸命の努力をしているところです。来年（1998）4月からは、引き続いて第二次中期計画が始まります。第一次中期計画での推移と経験に新思考を取り入れて、達成可能で事業伸長を図ることのできる第二次中期計画を策定しているところです。

まず、「現在の市場」と「新市場」を考えてみて、その両市場の中で「現在の製品群」、現製品の延長にある「将来の製品群」、あるいは全く新たな「新市場への新製品」のドメイン（事業領域）と製品を検討し、その中から山洋電気が今まで何が強く、何が弱いかを知り、それぞれ補完することで相乗効果を出せるものにしていきたいと考えています。

サーボシステムビジネスの中で代表されるACサーボシステムは、仕様の多様化やシステムの複雑化および上位との厳しい整合インターフェース、さらに高信頼性などの要求に対して、その構成要素であるサーボモータ・サーボセンサ・サーボアンプやサーボコントローラの技術開発により、顧客の技術要求を克服し進展させてきました。

ACサーボモータは、永久磁石材料の著しい高性能化と設計・製造・加工技術の飛躍的進歩およびサーボセンサの高分解能・高精度化・省配線化により、高効率・小型軽量高信頼性を達成しました。サーボアンプは半導体の進歩とその使用技術開発、さらにソフトによる制御技術開発などの驚異的成果により、装置の部品点数の削減、小型化、多機能・高精度・信頼性向上など著しく進歩・発展させることができました。

このACサーボシステムには、中空軸サーボ、高速サーボを加えて、その用途としての産業用ロボットやNC工作機械などのFA機器、プリンター、複写機などのOA機器、その他医療機器・光学機器・試験機など多くの装置・機械の高性能・高精度、高速・小型軽量・省スペース、調整時間短縮、生産性向上などなどに大きく貢献しています。

今後サーボシステムは益々普及発展するものと考えられ、その発展と新しい分

野の展開に伴い、ACサーボシステムの特長、形状、機能などに多くの異なるニーズがでてきます。これに答えるにはさらなる技術革新を続けていかなければならないと考えています。

我々はこれらのシステムおよびコンポーネントをより“みがき”、この技術を土台としてサーボシステムビジネスを強化していきたいと考えています。

## サーボシステム事業部の「ありたい姿」

山洋電気の企業理念を実現するために、サーボシステム事業部としてどのようにすべきかを、事業部の全部署が参画・討議して、サーボシステム事業部の「ありたい姿」としてまとめました。

「私たちサーボシステム事業部は社会に貢献し、永遠に継続発展する事業を推進します」

- 社会や環境に対しては、

「ISO14000の環境システムを構築し、生産活動における環境負荷の軽減を図ります」

「環境に配慮した技術および製品開発に努めます」

- お客様やユーザーに対しては、

「オープン化・マーケットインを志向して、潜在的ニーズを喚起できる技術を目指します」

「時代にマッチした高品質の製品をタイミング良く供給します」

「ビフォー、アフターサービスを充実し、さらなる顧客満足度を高めます」

- 協力会社や取引会社に対しては、

「より良い部品の共同開発をおこないます」

「社外の技術力、開発力および人材を積極的に取り入れ活用を図ります」

「製造委託は指導をふくめて、継続的な相互協力を努めます」

- 投資家や金融機関に対しては、

「製品および技術情報を積極的に開示します」

「適正な利潤を確保します」

- 同業者や競争会社に対しては、

「競合他社とは技術を主体として競争します」

「技術の補完に相互にメリットがある場合には技術提携を行います」

「商売上相互にメリットがある場合には業務提携を行います」

- 社員に対しては、

「技術・製品開発、生産合理化などを全員参加で推進します」

「快適で安全な職場環境をつくります」

「人材のレベルアップを考えた教育を積極的に行います」

- サーボシステム事業部の事業領域は、

「メカトロニクス分野におけるモーションコントロール、メカ、ソフト、通信ネットワークを含めた応用製品分野へも拡大し、世界的な規模で行ないます」

この「ありたい姿」に適う成果を得るために、サーボシステム事業部としては、下記の点を重点に推進していきます。

- ①人材のレベルアップと育成
- ②世界の強豪と競い利益の保たれる技術の取得向上
- ③品質の向上(不良製品の撲滅)
- ④生産の合理化推進

- ⑤事業部の組織・体制の整備確立  
そして、製品開発のコンセプトは山洋電気の「新しい技術の方向」である
- ①地球環境を守るための技術
  - ②人の健康と安全を守るための技術
  - ③新しいエネルギーの活用と省エネルギーのための技術に基づいて企画・立案し、技術および製品開発を推進する所存です。

**図1** サーボシステムの用途および要求商品

---

工藤 昌彦  
取締役  
サーボシステム事業部 事業部長

仲田 克之  
取締役 サーボシステムビジネス担当  
サーボシステム事業部 副事業部長

村田 茂人  
サーボシステム事業部 副事業部長

---

図1 サーボシステムの用途および要求商品

